

ともに挑む。ともに実る。



MIZUHO REPORT

第24期中間 株主の皆さまへ

2025年4月1日 ▶ 2025年9月30日

Contents

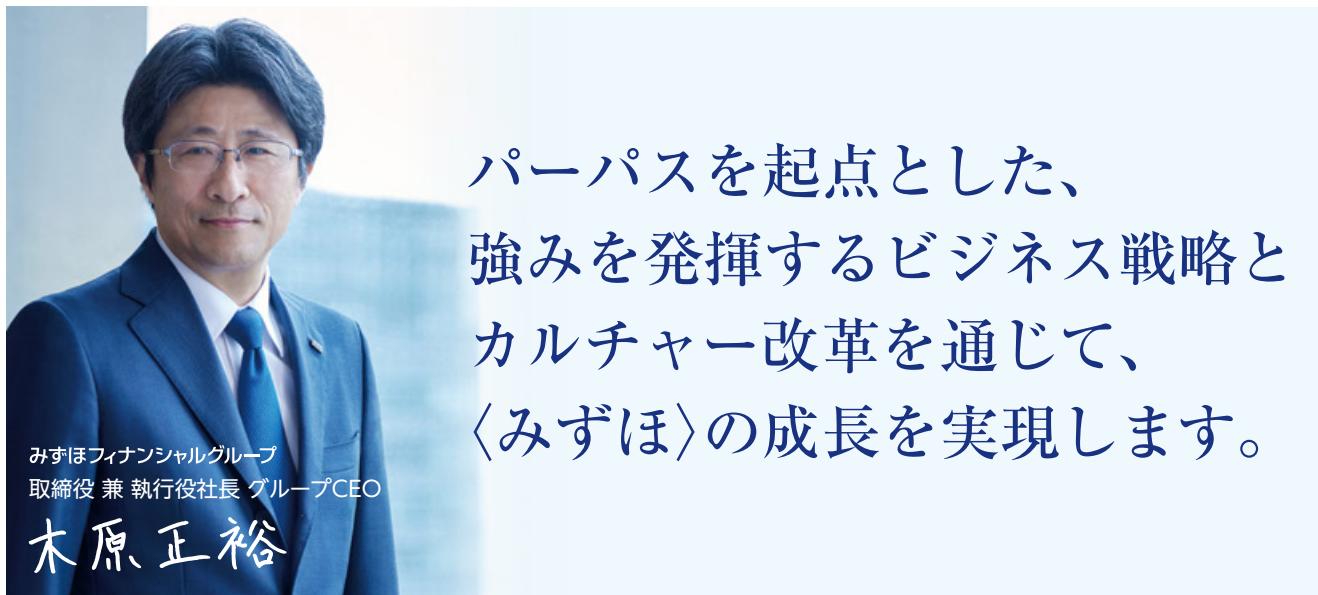
- ▷ Top Message
- ▷ 中間期決算について
- ▷ 株主さまへの還元について
- ▷ 注力ビジネスへの取り組み
- ▷ 新たなコーポレートコミュニケーション
- ▷ インフォメーション

》〈みずほ〉の企業理念



パーサスに込めた思い

〈みずほ〉の源流の1つ、日本初の銀行である第一国立銀行が発足してから150年が過ぎました。〈みずほ〉では、渋沢栄一、安田善次郎といった数多くの先人がフェアでオープンな姿勢と先見性をもって社会経済の発展に挑んできました。そのDNAが現在の私たちにも受け継がれ、誰よりも変化に先駆けて価値を生み出そうとしています。〈みずほ〉は、「ともに挑む。ともに実る。」をパーサスとして掲げています。それは、お客様一人ひとりと、ともに歩んでいくこと。挑戦する企業をサポートしながら、ともに成長していくこと。〈みずほ〉で働く人同士が、ともにより良く変わっていくこと。豊かに実る未来の実現に向けて、私たちは挑戦し続けます。



みずほフィナンシャルグループ
取締役 兼 執行役社長 グループCEO

木原 正裕

株主の皆さんには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

中間期決算および中期財務目標の進捗について

足元、世界情勢の不確実性が高まり、グローバル化を推し進めてきた世界に大きなパラダイムシフトが起きています。このパラダイムシフトが示唆することは何か。私自身は、各国が自らの強みや課題を再認識し、自らの勝ち筋を再構築していくことが求められるということだと思います。少子高齢化による人手不足、低い食料・エネルギー自給率、産業の国際競争力の低下といった課題を抱える日本は、今こそ国としての勝ち筋を再構築していく必要があります。

かかる中、2025年度中間期の決算は、日銀による利上げの影響を主因とした金利収益の伸長に加え、国内外でのソリューション・投資銀行ビジネス等も好調に推移し、親会社株主純利益6,899億円と7月に期初公表対比+800億円の上方修正を行った年度計画1兆200億円に対し67%の進捗となりました。今回、こうした決算の高

い進捗を踏まえ、親会社株主純利益の年度計画の見通しを1兆1,300億円（期初公表比+1,900億円、7月公表比+1,100億円）へと、さらに上方修正しております。2026年3月期の中間配当につきましては、一株あたり72円50銭といたしました。安定的な収益基盤の着実な成長に基づき毎期5円を目安に増配を実施する配当方針を踏まえ、年間配当は145円と、前期実績から5円の増配を予想しております。さらに、総還元性向50%以上を目安とした株主還元方針に従い、自己株式の取得（上限：2,000億円、年度累計：3,000億円）も実施いたします。

中期経営計画で掲げた財務目標を2024年度に前倒しで達成し、2025年度からは新たな中期財務目標を掲げスタートを切りましたが、力強い走り出しができているものと手応えを感じています。

目まぐるしいスピードで変化する昨今の経営環境を踏まえ、中期財務目標は3年間といった特定の期間に固執することなく、環境変化に応じて柔軟に見直すことで、ステークホルダーの皆さまとの透明性の高いコミュニケーションを築いていきたいと思います。

CEOの使命

グループCEOとしての私の使命は、健全なカルチャーの醸成と〈みずほ〉が強みを發揮し得る戦略の構築の2つと認識しています。健全なカルチャーが醸成されれば社員はモチベートされ挑戦する。〈みずほ〉が強みを発揮し得る領域に戦略を注力すれば社員が成功体験を味わうことで働きがいを感じ挑戦を繰り返していく。カルチャーと戦略の好循環が達成されれば自ずと〈みずほ〉が成長していく。このように私は確信しています。戦略につきましては前段でご説明の通り、堅調な決算という形で一定の成果につながっていることを実感しています。

一方、健全なカルチャーの醸成ですが、そもそも我々がめざすカルチャーは、誰もが建設的な意見を発信することができて、活発な議論を通じて新たな取り組みや先進的なソリューション構築に挑戦できる風土です。



健全なカルチャー醸成には大きく3つのポイントがあります。1点目は、社員間の一体感を醸成するべくパーパスを定めること。我々は「ともに挑む。ともに実る。」を掲げ、思いを一つにしています。2点目が挑戦する自立的な個人を育む人事制度。社員との協働で2024年度より新たな人事制度〈かなで〉をスタートさせています。役割と成果に応じた人事制度へ変更し、より高い役割を担える人材は年齢に関わりなく登用していきます。そして3点目が多様な人材が活躍できる風土をつくること。男女に関わりなく能力がある社員の登用や外部採用の積極化です。

カルチャー改革の先頭に立ち、年間100拠点以上の訪問、本社での15~20回のタウンホールミーティング開催を通じ、社員との対話を進めてきました。

こうした取り組みを通じてカルチャー改革も一定の成果があったと感じていますが、カルチャー改革に終わりはありません。継続的な取り組みを進めていきます。

最後に — 異なる価値観を尊重し合える 〈みずほ〉となるために

私がめざしているのは、「グローバルに展開する日本の金融機関」から、「日本の価値観に根差した、多様な文化をつなぐグローバル金融機関」への変貌です。経営層も含め〈みずほ〉全体に多様な人材が活躍し、あらゆる場面でグローバルな議論ができる。そのような異なる価値観を尊重し合える〈みずほ〉をめざします。

株主の皆さんにおかれましては、引き続き、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

➤ 中間期決算について

2025年度 親会社株主中間純利益

6,899 億円
(前年同期比 +1,238億円)

上方修正

年度見通し

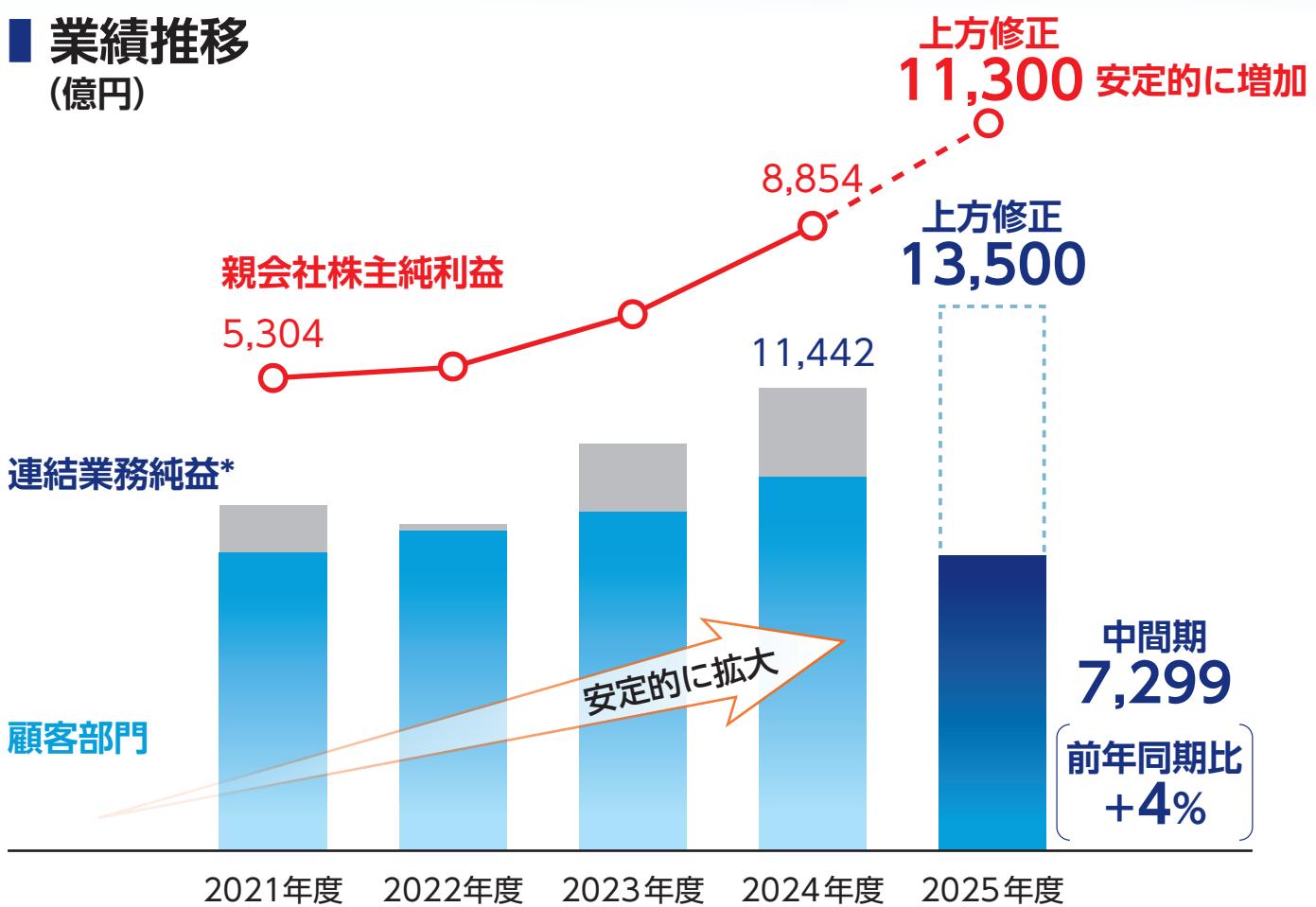
11,300 億円

7月開示比+1,100億円

(期初比+1,900億円)

中間期決算の高い進捗を踏まえ、2025年7月に引き続き業績見通しを上方修正しました

■ 業績推移 (億円)



* 連結粗利益(ETF関係損益等を含む) - 経費(臨時処理分を除く) + 持分法による投資損益等連結調整

→ 詳細はこちら

➤ 株主さまへの還元について

自己株式取得

追加取得

2,000 億円
(年度累計3,000億円)

2025年度

中間配当金

72.5 円

(前年度比+7.5円)

支払開始日：2025年12月5日

累進的な一株あたりの増配に加え、機動的な自己株式取得を実施しました

配当

安定的な収益基盤の着実な成長に基づき、毎期5円を目安に増配を実施

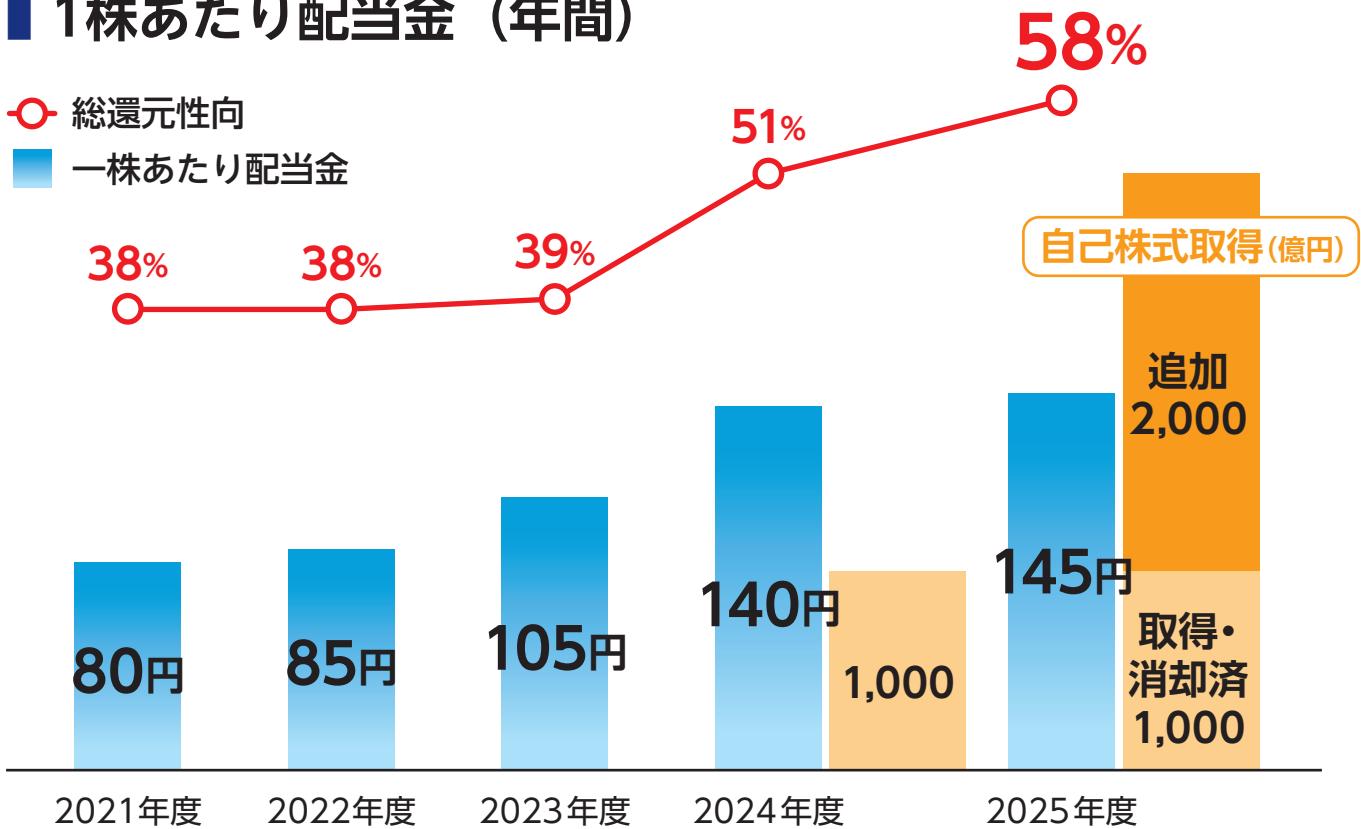
自己株式取得

業績と資本の状況、株価水準、成長投資機会等を勘案しつつ、総還元性向50%以上を目安に決定

■ 1株あたり配当金 (年間)

○ 総還元性向

■ 一株あたり配当金



→ 詳細はこちら

▶ 注力ビジネスへの取り組み



インターネット・店舗・コンタクトセンター（電話・チャット）の3つのチャネルを組み合わせ、どなたでも便利に安心してご利用いただける金融サービスを提供しています。また、ポイントを活用した特典（みずほポイントモールの新設）や、経済圏を有するパートナー企業との連携を通じて、お客さまの日常生活に役立つ便利なサービス作りに尽力しています。今後も利便性向上と安心の両面を重視し、より多くのお客さまに選ばれる金融機関をめざします。

→ 詳細はこちら



〈みずほ〉では銀行・証券・信託銀行のそれぞれの強みを活かし、年代や目的に合わせ、お一人おひとりに寄り添った提案を通じ、初めての方から経験者まで安心して資産形成・資産運用ができるようサポートしています。また、NISA口座の普及や楽天証券との連携強化にも注力しています。預かり資産残高も安定して増加しており、高い専門性に基づく総合資産コンサルティングを提供していきます。

→ 詳細はこちら

※1 みずほ銀行+みずほ証券+楽天証券

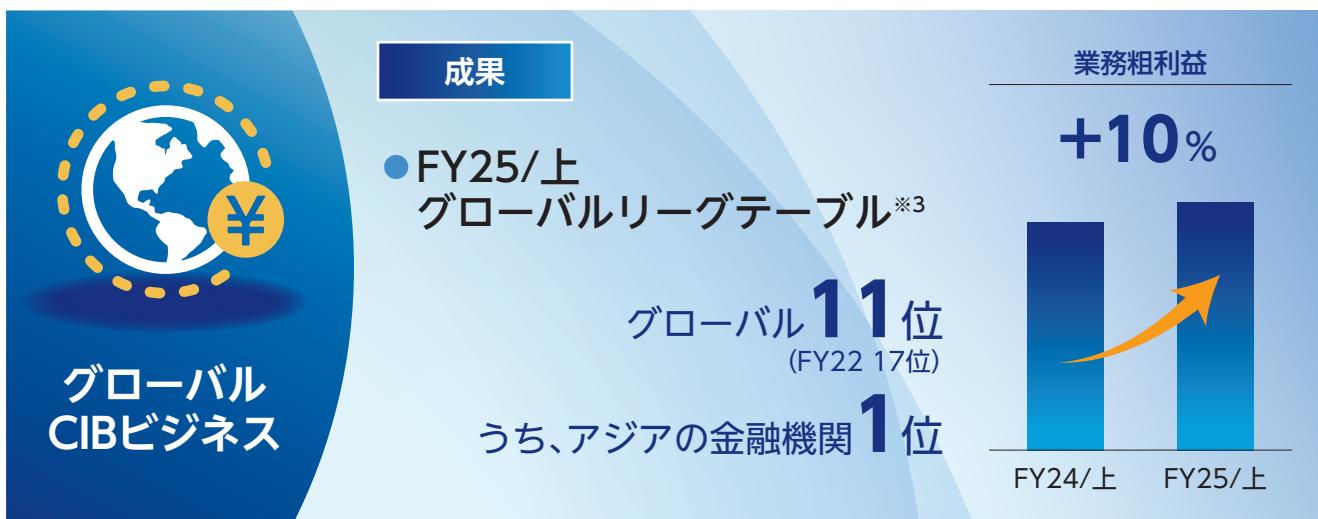
※2 みずほ銀行+みずほ信託銀行+みずほ証券。株価変動等の影響を含む。
為替は計画レートを適用



〈みずほ〉には、産業知見を活かして法人のお客さまや官公庁と業界の将来像を議論してきた長い歴史、スタートアップ支援の先駆者として業界の発展をリードしてきた経験があります。日本企業を取り巻く環境が変化する中、国力向上には日本企業の競争力強化が不可欠です。〈みずほ〉は、強みである投資銀行ビジネス、ファイナンス提供力、コンサルティング機能、それらを支える専門性の高い人材を最大限に活かし、イノベーション企業・中堅中小企業から大企業まで幅広いお客様の競争力強化を徹底的に支援し、お客様とともに成長し続けます。

→ 詳細はこちら

※1 コーポレート＆インベストメントバンキングカンパニー：国内の大企業法人・金融法人・公共法人のお客さまを担当するカンパニー
※2 リテール・事業法人カンパニー：国内の中小企業・中堅企業等のお客さまを担当するカンパニー



2023年12月に完了した米国M&Aアドバイザリー会社Greenhillの統合により、M&A機能を内製化し、グローバルでのソリューション提供力を強化してきました。米国を中心とした資本市場における高いプレゼンスや、充実したグローバルネットワークを活かし、地域間連携を強めていくことで、グローバル企業とともに成長する「グローバルCIBトップ10の戦略パートナー」をめざします。

→ 詳細はこちら

※3 日本と海外の合算順位。フィーベース。投資銀行プロダクツ。 (出所)Dealogic



サステナビリティ
&イノベーション

成果

- サステナブルファイナンス実績^{※1} **44.6兆円** (FY25/上)
- サステナブルファイナンス(ローン)^{※2} **国内1位**
グローバル5位
- 脱炭素社会に向けた将来戦略
水素社会の実現、カーボンクレジット市場の育成、インパクトの創出、循環型社会の実現など

〈みずほ〉は環境と社会に配慮した金融支援に積極的に取り組み、再生可能エネルギーの導入支援やイノベーションの促進などに尽力しています。2030年度までにサステナブルファイナンス組成額100兆円をめざして資金供給を行い、国内外のマーケットで高いプレゼンスを発揮しています。引き続き様々なステークホルダーと共に創して環境・社会課題の解決を支援していくことで、企業価値の向上とサステナビリティの実現に挑戦していきます。

→ 詳細はこちら

※1 速報ベース。累計
※2 (出所) LSEG、FY25 H1

》新たなコーポレートコミュニケーション

「青さで、挑む。」 株式会社みずほフィナンシャルグループ設立25周年を迎えるにあたり、出口夏希さんとともに吉沢亮さんを新ブランドアンバサダーとして起用し、「青さで、挑む。」をテーマとした新たなコーポレートコミュニケーションを開始しました。

〈みずほ〉は、未来に描く夢や理想を実現するため、自分の可能性を信じて胸に秘めた情熱で一步を踏み出す、すべての「青い挑戦」を応援しています。「青さ」を、内に秘めた情熱や、最後まで諦めずに挑み続ける強さの象徴として解釈し、「青くて、いいんだ。」と肯定しながら仲間とともに困難を乗り越えていく姿勢を描きます。



→ 詳細はこちら

》 インフォメーション

— 配当金のお受け取りは、便利な口座振込をご活用ください。 —



お手続きはカンタン

配当金振込指定書を
ご提出いただくだけで手続完了

みずほ信託銀行のウェブサイトへ
click 詳細はこちら



お問い合わせはこちら

証券会社等に
口座を開設されている株主さま

お取引のある証券会社等に
お問い合わせください。

証券会社等に
口座がない株主さま

みずほ信託銀行
0120-288-324
(通話料無料 土・日・祝日を除く9:00～17:00)

株主総会資料のご案内方法について

- 2025年6月開催の第23期定時株主総会より、株主の皆さまのお手元には株主総会資料を掲載している当社ウェブサイトのアドレス（URL）等を記載した簡易的な招集ご通知をお届けしております（例年6月上旬を目処に発送）。
- 2026年6月開催予定の第24期定時株主総会においても引き続き簡易的な招集ご通知をお届けする予定です。
- 書面による株主総会資料の郵送をご希望される場合には、「書面交付請求」のお手続きを行っていただく必要があります*。詳しくは、当社株主名簿管理人であるみずほ信託銀行の以下の問い合わせ窓口、または株主さまが口座をお持ちの証券会社までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

* お手続きにお時間がかかる場合がありますので、ご希望される株主さまはお早めにお手続きください。なお、すでに書面交付請求済みの株主さまは、重ねての書面交付請求のお手続きは不要です。

みずほ信託銀行 お問い合わせ窓口

みずほ信託銀行 電子提供制度専用ダイヤル

0120-524-324
(通話料無料 土・日・祝日を除く9:00～17:00)